

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-530	13-312	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Impact of lifetime alcohol use on liver fibrosis in a population of HIV-infected patients with and without hepatitis C coinfection. HIV 感染患者の集団の C 型肝炎の共感染の有無と生涯のアルコール摂取の肝線維症への影響		
<b>執筆者</b>		
Fuster D <sup>1</sup> , Tsui JI, Cheng DM, Quinn EK, Bridden C, Nunes D, Libman H, Saitz R, Samet JH.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Clin Exp Res. 2013 Sep;37(9):1527-35.		
<b>キーワード</b>		
アルコール、肝線維症、HIV、C 型肝炎		
<b>要 旨</b>		
<p>背景</p> <p>HIV 感染者の肝疾患に関するアルコールの影響はよく解明されていない。</p> <p>方法</p> <p>我々は、アルコール問題のある HIV 感染患者の縦断のコホート調査で、生涯アルコール摂取量と肝線維症の関係を横断的に多変量解析した。次の 2 つの非侵襲的な指標で肝線維症を推定した。FIB-4 は血小板数、肝臓酵素と年齢から計算し; APRI (AST/血小板数比) は血小板と肝臓酵素を含む。FIB-4 &lt; 1.45 と APRI &lt; 0.5 は、肝線維症が欠如するものと判断した。FIB-4 &gt; 3.25 と APRI &gt; 1.5 は、進行した肝線維症と定義した。主な独立変数は、生涯アルコール消費量 (&lt; 150kg、150~600kg、&gt; 600kg) であった。</p> <p>結果</p> <p>被験者 (n = 308) の 73% が男性であり、平均年齢は 43 歳で、C 型肝炎ウイルス (HCV) 感染者は 49%、抗レトロウイルス療法を受けている者 60%、HIV RNA 量 &lt; 1,000 コピー/ml が 49%、CD4 陽性細胞数 &lt; 200 個/mm<sup>3</sup> は 18.7% であった。被験者の 45% は、生涯のアルコール消費が &gt; 600kg であり、32.7% が 150~600kg、22.3% が &lt; 150kg であった。33% は現在も大量にアルコール摂取をし、69% は 9 年間以上の大量飲酒のエピソードをもっていた。61 パーセントには肝線維症はなく、10% は FIB-4 に基づいて進行した肝線維症をもっていた。ロジスティック回帰分析 (年齢、性、HCV 感染症と CD4 陽性細胞数をコントロール) において、生涯アルコール消費量と肝線維症 (FIB-4 &lt; 1.45) の欠如の間に関連は見いだされなかった (補正オッズ比 [AOR] = 1.12 [95%CI : 0.25~2.52] 150~600kg 対 &lt; 150kg; AOR = 1.11 [95%CI : 0.52~2.36] &gt; 600kg 対 &lt; 150kg; 全体的な p = 0.95)。さらに、生涯アルコール摂取量と進行した肝線維症 (FIB-4 &gt; 3.25) の間に関連は見いだされなかった。APRI を用いた結果でも、HCV 感染症の有無にかかわらず結果は類似していた。</p> <p>結論:</p> <p>アルコール問題をもつ HIV 感染患者のコホート研究において、我々は生涯アルコール消費量と肝線維症の欠如または進行した肝線維症の間に有意な関係をみいだせなかった。この集団では肝線維症を促進する他の既知の因子に比較してアルコールがより重要ではないことが示唆された。</p>		